

【FdData 高校入試：中学数学 3 年：標本調査】

[\[標本調査による推測\]](#) / [\[標本調査の方法\]](#) / [\[FdData 入試製品版のご案内\]](#)

[\[FdData 入試ホームページ\]](#)掲載の pdf ファイル(サンプル)一覧

※次のリンクは[Shift]キーをおしながら左クリックすると、新規ウィンドウが開きます

数学：[\[数学 1 年\]](#)，[\[数学 2 年\]](#)，[\[数学 3 年\]](#)

理科：[\[理科 1 年\]](#)，[\[理科 2 年\]](#)，[\[理科 3 年\]](#)

社会：[\[社会地理\]](#)，[\[社会歴史\]](#)，[\[社会公民\]](#)

※全内容を掲載しておりますが、印刷はできないように設定しております

【】 標本調査による推測

[問題]

同じ大きさの小豆が入った袋がある。この袋から取り出した 200 粒の小豆に、印をつけて袋にもどし、よくかき混ぜた。そこから小豆を無作為に取り出したところ、160 粒あり、その中に印をつけた小豆が 10 粒混じっていた。はじめに袋に入っていた小豆はおよそ何粒と考えられるか。

(山形県)(**)

[解答欄]

[ヒント]

はじめに袋に入っていた小豆を x 粒とする。

(全体の小豆の数) : (印をつけた小豆の数) の比をとると、

$x : 200 = 160 : 10$ になる。

[解答] およそ 3200 粒

[解説]

はじめに袋に入っていた小豆を x 粒とする。

(全体の小豆の数) : (印をつけた小豆の数) の比をとると、

$x : 200 = 160 : 10$

$10x = 32000$ ， $x = 3200$

はじめに袋に入っていた小豆はおよそ 3200 粒と考えられる。

[問題]

鯉がたくさんいる池がある。鯉の数を調べるために、次のような(手順)を考えた。

(手順)

- ① 池から何匹かの鯉を捕らえ、印を付けてから池にもどす。
- ② 数日後、再び池から何匹かの鯉を捕らえる。捕らえた中にいる印の付いた鯉の数を数える。
- ③ ①と②から、池の鯉の総数を推測する。

この(手順)に基づいて調べたところ、次のような(結果)を得た。

(結果)

- ① 最初に 120 匹の鯉に印を付けた。
 - ② 再び捕らえた鯉 700 匹のうち、印の付いた鯉は 42 匹であった。
- この(結果)から、池の鯉の総数はおよそ何匹と考えられるか、求めよ。

(青森県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 2000 匹

[解説]

池の鯉の総数を x 匹とする。

(全体の鯉の数) : (印のついた鯉の数)の比をとると、

$$x : 120 = 700 : 42$$

$$42x = 120 \times 700, \quad x = 120 \times 700 \div 42 = 2000$$

よって、池の鯉の総数はおよそ 2000 匹と考えられる。

[問題]

ヤンバルの森に生息するカメの総数を調べるために、この森のあちこちで合計 150 匹を捕獲し、その全部に目印をつけて森にもどした。数日後、同じようにして 60 匹捕獲したら、目印のついたカメは 3 匹だった。ヤンバルの森に生息するカメの総数は何匹と推測されるか。

(沖縄県)(**)

[解答欄]

[解答]3000 匹

【解説】

ヤンバルの森に生息するカメの総数を x 匹とする。

(全体のカメの数) : (目印をつけたカメの数)の比をとると、

$$x : 150 = 60 : 3$$

$$3x = 150 \times 60, \quad x = 150 \times 60 \div 3 = 3000$$

よって、ヤンバルの森に生息するカメの総数は 3000 匹と推測される。

【問題】

ある池にいるコイの数を調べるために、池のコイを 56 匹捕まえ、そのすべてに印を付けて池に戻した。数日後、同じ池のコイを 45 匹捕まえたところ、その中に印の付いたコイが 15 匹いた。この池にいるコイの数は、およそ何匹と推測されるか。一の位を四捨五入して答えよ。

(広島県)(**)

【解答欄】

【解答】およそ 170 匹

【解説】

この池にいるコイの数を x 匹とする。

(コイの総数) : (印をつけたコイの数)の比をとると、

$$x : 56 = 45 : 15$$

$$15x = 56 \times 45, \quad x = 56 \times 45 \div 15 = 168$$

一の位を四捨五入すると、およそ 170 匹

【問題】

箱の中に同じ大きさのクリップがたくさん入っている。標本調査を行い、この箱の中にあるクリップの数を推定することにした。箱の中からクリップを 120 個取り出して、その全部に印をつけてもとの箱に戻し、よくかき混ぜた後、箱の中からクリップを 80 個取り出したところ、その中に印のついたクリップが 6 個あった。この箱の中にはおよそ何個のクリップが入っていると推定されるか。

(新潟県)(**)

【解答欄】

【解答】およそ 1600 個

[解説]

箱の中にあるクリップを x 個とする。

(全体のクリップ数) : (印のついたクリップ数)の比をとると、

$$x : 120 = 80 : 6$$

$$6x = 120 \times 80, \quad x = 120 \times 80 \div 6 = 1600$$

よって、およそ 1600 個と推定される。

[問題]

アルミ缶とスチール缶の空き缶を合わせて 960 個回収した。これらの回収した空き缶の中から 48 個を無作為に抽出したところ、スチール缶が 22 個含まれていた。回収した空き缶のうち、スチール缶の個数はおよそ何個と推定できるか。

(鹿児島県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 440 個

[解説]

回収した空き缶のうち、スチール缶の個数を x 個とする。

(全体の缶の数) : (スチール缶の数)の比をとると、

$$960 : x = 48 : 22$$

$$48x = 960 \times 22, \quad x = 960 \times 22 \div 48 = 440$$

よって、スチール缶の個数はおよそ 440 個と推定できる。

[問題]

当たりくじとはずれくじがあわせて 2000 本入っている箱がある。この箱の中から 100 本のくじを無作為に抽出すると、当たりくじが 18 本であった。はじめにこの箱の中に入っていた当たりくじの本数はおよそ何本と考えられるか。

(長崎県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 360 本

[解説]

はじめにこの箱の中に入っていた当たりくじの本数を x 本とする。

(全体のくじの数) : (当たりくじの数)の比をとると、

$$2000 : x = 100 : 18$$

$$100x = 2000 \times 18, \quad x = 2000 \times 18 \div 100 = 360$$

よって、はじめにこの箱の中に入っていた当たりくじの本数はおよそ 360 本と考えられる。

[問題]

箱の中に、25 本の当たりを含むたくさんのかくじが入っている。このくじをよくかき混ぜた後、48 人がこの箱から 1 人 1 回ずつくじを引いたところ、当たりが 2 本出た。箱の中に最初に入っていたくじの本数は、およそ何本であったと推定できるか。

(群馬県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 600 本

[解説]

箱の中に最初に入っていたくじの本数を x 本とする。

(全体のくじの数) : (当たりくじの数)の比をとると、

$$x : 25 = 48 : 2$$

$$2x = 25 \times 48, \quad x = 25 \times 48 \div 2 = 600$$

よって、箱の中に最初に入っていたくじの本数は、およそ 600 本であったと推定できる。

[問題]

箱の中に白玉だけがたくさんはいつている。多くて数えきれないので、白玉と同じ大きさの赤玉 300 個を白玉がはいつている箱の中に入れよく混ぜた後、その中から 50 個の玉を無作為に抽出すると、赤玉が 5 個ふくまれていた。はじめに箱の中にはいつていた白玉の個数は、およそ何個と推測されるか。

(佐賀県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 2700 個

[解説]

はじめに箱の中にはいていた白玉の個数を x 個とする。

(全体の個数) : (赤玉の個数)の比をとると、

$$(x + 300) : 300 = 50 : 5$$

$$5(x + 300) = 15000, \quad x + 300 = 3000, \quad x = 2700$$

よって、はじめに箱の中にはいていた白玉の個数は、およそ 2700 個と推測される。

[問題]

箱の中に青玉だけがたくさんはいつている。その箱の中に、同じ大きさの赤玉 100 個を入れよくかき混ぜてから 18 個の玉を無作為に取り出したところ、赤玉が 3 個ふくまれていた。最初に箱の中にはいていた青玉は、およそ何個と推測されるか。

(宮崎県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 500 個

[解説]

最初に箱の中にはいていた青玉の個数を x 個とする。

(全体の個数) : (赤玉の個数)の比をとると、

$$(x + 100) : 100 = 18 : 3$$

$$3(x + 100) = 1800, \quad x + 100 = 600, \quad x = 500$$

よって、最初に箱の中にはいていた青玉は、およそ 500 個と推測される。

[問題]

袋の中にコップ 1 杯分の米粒が入っている。この袋の中の米粒の数を推測するために、食紅で着色した赤い米粒 300 粒をこの袋の中に加え、よくかき混ぜた後、その中からひとつかみの米粒を取り出して調べたところ、米粒は全部で 336 粒あり、そのうちの 16 粒が赤い米粒であった。この結果から、最初にこの袋の中に入っていたコップ 1 杯分の米粒の数は、およそ何粒と考えられるか。

(宮城県)(**)

[解答欄]

[解答]およそ 6000 粒

[解説]

最初にこの袋の中に入っていたコップ 1 杯分の米粒を x 個とする。

(全体の米粒の数) : (着色した米粒)の比をとると、

$$(x + 300) : 300 = 336 : 16$$

$$16(x + 300) = 300 \times 336, \quad x + 300 = 300 \times 21, \quad x + 300 = 6300, \quad x = 6000$$

よって、最初にこの袋の中に入っていたコップ 1 杯分の米粒の数は、およそ 6000 粒と考えられる。

[問題]

ある工場で作った製品が 9000 個ある。この 9000 個の製品を母集団とする標本調査を行って、不良品の個数を推測する。9000 個の製品の中から 300 個の製品を無作為に抽出して調べたとき、2 個が不良品であった。この標本調査の結果から、母集団の傾向として、9000 個の製品の中には何個の不良品がふくまれていると推測されるか。

(北海道)**

[解答欄]

[解答]60 個

[解説]

9000 個の製品の中には x 個の不良品がふくまれているとする。

(製品の全体の数) : (不良品の数)をとると、

$$9000 : x = 300 : 2$$

$$300x = 18000, \quad x = 60$$

よって、9000 個の製品の中には 60 個の不良品がふくまれていると推測される。

[問題]

箱の中にはたくさんのゴムバンド(輪ゴム)が入っている。箱の中に入っているゴムバンドの本数を推定するために、ゴムバンドすべての重さをはかると 100.8g であり、無作為に取り出した 20 本のゴムバンドの重さをはかると 4.2g であった。箱の中には、何本のゴムバンドが入っていたと推定されるか。

(熊本県)

[解答欄]

[解答]480 本

【解説】

箱の中のゴムバンドの数を x 本とする。

(ゴムバンドの数) : (ゴムバンドの合計の重さ)の比をとると、

$$x : 100.8 = 20 : 4.2$$

$$4.2x = 100.8 \times 20, \quad x = 100.8 \times 20 \div 4.2 = 480$$

よって、箱の中には、480本のゴムバンドが入っていたと推定される。

【問題】

同じクリップが入った箱がある。この箱からクリップ 50g を取り出し、数えたところ、120個だった。取り出したクリップを箱にもどし、全体の重さをはかったところ、箱の重さをひいたクリップの重さは 1kg だった。はじめに箱に入っていたクリップはおよそ何個と考えられるか。

(山形県)

【解答欄】

【解答】およそ 2400 個

【解説】

はじめに箱に入っていたクリップを x 個とする。

(クリップの数) : (クリップの合計の重さ)の比をとると、

$$x : 1000 = 120 : 50$$

$$50x = 120000, \quad x = 2400$$

よって、はじめに箱に入っていたクリップはおよそ 2400 個と考えられる。

【】 標本調査の方法

[問題]

次の調査のうち、標本調査でおこなうのが適当であるものを、ア～エの中からすべて選び、記号で答えよ。

- ア 学校での身体測定
- イ テレビ番組の視聴率調査
- ウ 航空機に乗る前の手荷物検査
- エ ある川の水質調査

(沖縄県)

[解答欄]

[解答]イ，エ

[解説]

調査の対象となる母集団ぼしゅうだんのすべてのものについて調べることを全数調査ぜんすうちょうさという。国勢調査、学校での健康診断、身体測定、入学試験、航空機に乗る前の手荷物検査など、個々の対象について調査する必要がある場合は全数調査が行われる。

これに対し、母集団から無作為むさくゐに標本ひょうほんを選び出し、母集団の平均値などを推定する調査方法を標本調査という。各種の世論調査やテレビ番組の視聴率調査のように全数調査では費用や時間がかかりすぎる場合は標本調査が適切である。また、ある川の水質調査も、流れている水のすべてをくみ上げて調べることは不可能なので、標本調査を行う。

[問題]

ある電池工場で、品質を検査するため、次のような手順で標本調査を行った。

手順1：3万個の電池の中から、300個の電池を取り出した。

手順2：取り出した電池を調べたら、その中の2個が不良品だった。

手順3：その結果から、3万個の電池の中におよそ200個の不良品が含まれていると推測した。

手順1を行うとき、注意しなければならないことは何か。ことばで説明せよ。

(岩手県)(**)

[解答欄]

[解答]無作為に抽出すること。

[問題]

ある中学校の生徒会が、全校生徒 525 人のうち、冬休みに家の手伝いをした生徒のおよその人数を調べることになり、40 人を無作為に抽出する標本調査を行った。このとき、次の各問いに答えよ。

(1) 標本の選び方として適切なものを、次のア、イ、ウ、エのうちから 1 つ選んで記号で答えよ。ただし、くじ引きを行うとき、その対象の中からの生徒の選ばれ方は同様に確からしいものとする。

ア 2 年生の中から 40 人をくじ引きで選ぶ。

イ 男子生徒 267 人の中から 40 人をくじ引きで選ぶ。

ウ 生徒全員の中から 40 人をくじ引きで選ぶ。

エ 運動部員の中から 20 人、文化部員の中から 20 人の計 40 人をくじ引きで選ぶ。

(2) 抽出された 40 人のうち、冬休みに家の手伝いをした生徒は 32 人であった。この中学校で、冬休みに家の手伝いをした生徒のおよその人数を求めよ。

(栃木県)(**)

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) ウ (2) およそ 420 人

[解説]

(1) アは 1 年生と 3 年生がはいっていないので、母集団を反映していない。

イは女子生徒がはいっていないので、母集団を反映していない。

ウは正しい。

エは運動部員の中から 20 人、文化部員の中から 20 人と限定しているため、母集団を反映していない。

(2) 冬休みに家の手伝いをした生徒の人数を x 人とする。

(生徒の数) : (手伝いをした生徒の人数) の比をとると、

$$525 : x = 40 : 32$$

$$40x = 525 \times 32, \quad x = 525 \times 32 \div 40 = 420$$

よって、冬休みに家の手伝いをした生徒の人数はおよそ 420 人である。

[問題]

ある中学校の全校生徒 720 人について、数学が好きかどうかを調べるために、標本調査をすることにした。次のア～ウで、標本の選び方としてもっとも適切なものはどれか。

ア 男子だけを選ぶ。

イ 1 年生の中からくじ引きで 150 人を選ぶ。

ウ 全校生徒 720 人に通し番号をつけ、乱数さいを使って 120 人を選ぶ。

(沖縄県)(**)

[解答欄]

--

[解答]ウ

[問題]

えりかさんの住んでいる町の商店街では、学校が使える助成券として、2点と1点の2種類のポイント券を購入金額に応じて配付している。えりかさんの中学校では、全校生徒に呼びかけて10000点を目標にポイント券を集めている。ポイント券が合計7200枚集まったところで、えりかさんはポイントの合計点がおよそ何点かを調べるために、標本調査を行うことにした。集まったポイント券の中から400枚のポイント券を無作為に抽出して調べたところ、抽出したポイント券のうち2点のポイント券は135枚であった。

- (1) この調査において、標本の大きさを答えよ。
- (2) この調査において、標本の傾向から母集団の傾向を推測すると、集まったポイント券のポイントの合計点について、どのようなことが考えられるか。次のア、イのうち、適切なものを1つ選び、記号で答えよ。また、選んだ理由を説明せよ。
- ア ポイントの合計点は10000点以上であると考えられる。
- イ ポイントの合計点は10000点未満であると考えられる。

(福島県)**

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 400 (2) イ

[解説]

(1) 「400枚のポイント券を無作為に抽出して調べた」とあるので、標本の数は400である。

(2) ポイント券7200枚のうち、2点のポイント券が x 枚あったとする。

(ポイント券の全体の枚数) : (2点のポイント券の枚数)の比をとると、

$$7200 : x = 400 : 135$$

$$400x = 7200 \times 135, \quad x = 7200 \times 135 \div 400 = 2430$$

よって、7200枚のうち、2430枚が2点のポイント券で、残りの $7200 - 2430 = 4770$ (枚)が1点のポイント券であると推測できる。

よって、(ポイントの合計点) = $2 \times 2430 + 1 \times 4770 = 9630$ (点)

したがって、ポイントの合計点は10000点未満であると考えられる。

[問題]

あるみかん農園では、1日に1500個のみかんを収穫した。その糖度を調べるため、標本として30個のみかんを無作為に抽出し、糖度を調べた。右の表は、その結果をまとめたものである。次の各問いに答えよ。

糖度(度)	度数(個)
以上 未満 9.5~10.5	2
10.5~11.5	5
11.5~12.5	8
12.5~13.5	12
13.5~14.5	3
計	30

- (1) 抽出した30個のみかんの糖度の平均値を求めよ。
 (2) この1日で収穫した1500個のみかんのうち、糖度が12.5度以上、14.5度未満のみかんは、およそ何個と推測されるか、求めよ。

(和歌山県)**

[解答欄]

(1)	(2)
-----	-----

[解答](1) 12.3度 (2) 750個

[解説]

(1) 度数分布表を使って平均値を出す場合、各階級の(階級値)×(度数)を合計したものを全体の度数で割って算出する。

$$9.5\sim 10.5 \text{ 度(階級値は } 10.0 \text{ 度)} : (\text{階級値}) \times (\text{度数}) = 10.0 \times 2 = 20.0(\text{度})$$

$$10.5\sim 11.5 \text{ 度(階級値は } 11.0 \text{ 度)} : (\text{階級値}) \times (\text{度数}) = 11.0 \times 5 = 55.0(\text{度})$$

$$11.5\sim 12.5 \text{ 度(階級値は } 12.0 \text{ 度)} : (\text{階級値}) \times (\text{度数}) = 12.0 \times 8 = 96.0(\text{度})$$

$$12.5\sim 13.5 \text{ 度(階級値は } 13.0 \text{ 度)} : (\text{階級値}) \times (\text{度数}) = 13.0 \times 12 = 156.0(\text{度})$$

$$13.5\sim 14.5 \text{ 度(階級値は } 14.0 \text{ 度)} : (\text{階級値}) \times (\text{度数}) = 14.0 \times 3 = 42.0(\text{度})$$

$$(\text{糖度の合計}) = 369.0(\text{度})$$

$$\text{よって, } (\text{平均値}) = 369.0 \div 30 = 12.3(\text{度})$$

(2) 収穫した1500個のみかんのうち、糖度が12.5度以上、14.5度未満のみかんが x 個であったとする。

(全体の個数) : (糖度が12.5度以上、14.5度未満のみかんの個数)の比をとると、

$$1500 : x = 30 : (12 + 3)$$

$$30x = 1500 \times 15, \quad x = 1500 \times 15 \div 30 = 750$$

よって、糖度が12.5度以上、14.5度未満のみかんは、およそ750個と推測される。

[問題]

箱の中に白玉と黒玉があわせて 10000 個入っている。A さんはこの箱の中に入っている黒玉の総数を調べるために、次の(実験)を何回かくり返し行った。

(実験)

箱の中の玉をよくかき混ぜ、箱の中から 30 個の玉を無作為に抽出し、その中にふくまれる黒玉の個数を数える。その後、抽出した玉をすべて箱の中にもどす。

黒玉の個数(個)	度数(個)
7	7
8	10
9	(ア)
10	8
11	4
12	2

右の表は、A さんが行った(実験)のすべての結果をまとめたものであり、黒玉の個数が 10 個の階級の相対度数は 0.16 であった。このとき、次の各問いに答えよ。

- (1) A さんが行った(実験)の回数を求めよ。
- (2) 表中の(ア)に当てはまる数を求めよ。
- (3) 次の文章は、表をもとに A さんが書いたものである。文章中の①、②に当てはまる数をそれぞれ求めよ。ただし、②に当てはまる数は小数第 1 位を四捨五入し、整数で求めること。

抽出した玉の中にふくまれる黒玉の個数の平均値は(①)個となる。この値から推測すると、箱の中に入っている黒玉の総数はおよそ(②)個と考えられる。

(京都府)(***)

[解答欄]

(1)	(2)	(3)①
②		

[解答](1) 50 回 (2) 19 (3)① 8.96 ② 2987

[解説]

(1) 度数の合計を a 個とすると、「黒玉の個数が 10 個の階級の相対度数は 0.16 であった」と

あるので、 $\frac{8}{a} = 0.16$, $0.16a = 8$, $a = 8 \div 0.16 = 50$

よって、A さんが行った(実験)の回数は 50 回である。

(2) $7 + 10 + (\text{ア}) + 8 + 4 + 2 = 50$, $31 + (\text{ア}) = 50$, $(\text{ア}) = 19$

(3)① (黒玉の個数の平均値)

$$= \frac{7 \times 7 + 8 \times 10 + 9 \times 19 + 10 \times 8 + 11 \times 4 + 12 \times 2}{50} = 8.96(\text{個})$$

② 箱の中に入っている黒玉の総数を x 個とする。

(黒玉+白玉) : (黒玉)の比をとると、 $10000 : x = 30 : 8.96$

$30x = 10000 \times 8.96$, $x = 89600 \div 30 = 2986.66 \dots = \text{約 } 2987(\text{個})$

[問題]

ある年の全国の米の収穫量は、約 8439000t であった。有効数字を 8, 4, 3, 9 として、この収穫量を(整数部分が 1 けたの数) \times (10 の累乗)の形で表せ。

(宮城県)(**)

[解答欄]

[解答] $8.439 \times 10^6(t)$

【FdData 入試製品版のご案内】

詳細は、[\[FdData 入試ホームページ\]](#)に掲載 ([Shift]+左クリック→新規ウィンドウ)

姉妹品：[\[FdData 中間期末ホームページ\]](#) ([Shift]+左クリック→新規ウィンドウ)

◆印刷・編集

この PDF ファイルは、FdData 入試を PDF 形式に変換したサンプルで、印刷はできないように設定しております。製品版の FdData 入試は Windows パソコン用のマイクロソフト Word(Office)の文書ファイルで、印刷・編集を自由に行うことができます。

◆FdData 入試の特徴

FdData 入試は、公立高校入試問題の全傾向を網羅することを基本方針に編集したワープロデータ(Word 文書)です。入試理科・社会・数学ともに、過去に出題された公立高校入試の問題をいったんばらばらに分解して、細かい單元ごとに再編集して作成しております。

◆サンプル版と製品版の違い

ホームページ上に掲載しておりますサンプルは、製品の Word 文書を PDF ファイルに変換したもので印刷や編集はできませんが、製品の全内容を掲載しており、どなたでも自由に閲覧できます。問題を「目で解く」だけでもある程度の効果をあげることができます。

しかし、FdData 入試がその本来の力を発揮するのは印刷や編集ができる製品版においてです。また、製品版は、すぐ印刷して使える「問題解答分離形式」、編集に適した「問題解答一体形式」、などの形式を含んでいますので、目的に応じて活用することができます。

※[FdData 入試の特徴\(QandA 方式\)](#) ([Shift]+左クリック→新規ウィンドウ)

◆FdData 入試製品版(Word 版)の価格(消費税込み)

※以下のリンクは[Shift]キーをおしながら左クリックすると、新規ウィンドウが開きます

[数学 1 年](#)(4400 円), [数学 2 年](#)(6400 円), [数学 3 年](#)(9600 円) : (統合版は 16,200 円)

[理科 1 年](#)(6800 円), [理科 2 年](#)(6800 円), [理科 3 年](#)(6800 円) : (統合版は 16,200 円)

[社会地理](#)(6800 円), [社会歴史](#)(6800 円), [社会公民](#)(6800 円) : (統合版は 16,200 円)

※Windows パソコンにマイクロソフト Word がインストールされていることが必要です。
(Mac の場合はお電話でお問い合わせください)。

◆ご注文は、メール(info2@fdtext.com), または電話(092-811-0960)で承っております。

※[注文→インストール→編集・印刷の流れ](#) ([Shift]+左クリック)

※[注文メール記入例](#) ([Shift]+左クリック)

【Fd 教材開発】 Mail : info2@fdtext.com Tel : 092-811-0960